

RALPH ROLLE Premium Drum Clinic & Funky Session ]  
Aug. 25 2016 at Koiwa Live Theater ORPHEUS

Manami Tanaka

How many times did he say "Passion" that night? Maybe it's 30 times or more. Ralph said, "No matter what, live with your passion. You can be anything that you want to be when you have a passion."

In fact, Ralph said that he's been through a lot because of his passion in his career while 40 years.

At his drum clinic, Ralph talked about "The 5 P's" which mean, **Passion, Power, Placement, Performance and Purity**. All 5 P's are important, but it seems "Passion" is the most special thing in what he said. Even when he was talking about terrorism of Istanbul (while he was on stage with Nile Rodgers and CHIC in Istanbul, terrorist attacked Istanbul's airport. It was such a shocking and scary story), he said his passion for being a musician made him continue.

Words of all topics he said are very positive, express and strong. I saw some people writing down Ralph's words in their notebooks. I did that too. There were many musicians there. I'm just not a musician but the stories that he gave us were very important and interesting for me.

What does "passion" mean to me? It was a moment that made me rethink what "My life" is.

I enjoyed music performance session by the new and seasoned musicians. Ralph pointed out young player's good points and helpful tips. He also gave the exact advice that they needed to hear. They seemed satisfied with it. I thought that all of the people there received good vibe.

He continued his clinic for an extra 1.5 hour with his passion! Wow.

【ラルフ・ロール プレミアム・ドラム・クリニック&ファンキー・セッション】

2016年8月25日

東京 小岩 「ライブシアター・オルフェウス」にて

その夜、何回彼は「情熱」という言葉を口にしたのだろうか？おそらく30回、いや、それ以上であったかも知れない。「どんなことがあろうとも、君たちは情熱と共に生きて下さい」「情熱さえ忘れずにいたら、君は君になりたいと思うどんな人にもなれるのです」こんな風に彼は、いく度も「情熱」について語っていたのである。事実、そうやってラルフ・ロールは40年間に及ぶ彼のキャリアの中で、立ち足はだかる様々な困難を彼の抱える熱い情熱で乗り越えてきたのだという話を、得意のユーモアも織り交ぜつつ具体例をいくつも挙げて披露してくれた。

ラルフ・ロールが主催するドラム・クリニックにて、彼は常に「5つの【P】」についての話をする。この【5P】がミュージシャンにとってとても重要なのである、と。それらはすなわち、Passion（情熱）、Power（パワー）、Placement（音の配置）、Performance（パフォーマンス）、Purity（純粋さ）というものだが、その中でもとりわけ「情熱」というものが、彼の中では特別な存在であるようだ。イスタンブールにおいて発生したテロ事件に遭遇した話の中でさえ（2016年6月28日トルコの国際空港でテロ爆破攻撃が発生したその瞬間、ラルフ達はイスタンブール公演の最中でまさにステージ上で演奏していたのだという。テロが起きた24時間前にはその空港から入国していた。演奏は中断されることなくショーは続いたが、観客達は皆一斉にスマホを取り出し100人以上のオーディエンスは足早にその場から去っていったのをバンドメンバー達は目の当たりにして、非常に恐怖を感じたという）恐ろしいという感情に押しつぶされそうになりながらも、その中で自分はミュージシャンであるという情熱を見出し、演奏をする力を奮い立たせたのだと語った。

彼がクリニックの中で、それぞれのトピックスで語る言葉というのはすべてにおいて、ポジティブで明確で、そして力強いものだった。その日のクリニックでは、ラルフが放ったそれらの言葉達を必死にノートに書きとっている若いミュージシャンが何人もいた。私も彼らのようにいくつかの言葉をメモした。

ラルフのドラム・クリニックに興味を抱いて参加した私は、実のところミュージシャンではないのだが、そんな私にとってもその夜に彼がしてくれた話というのは、とても大切で非常に興味深い内容であった。「私の中の【情熱】とは、一体どういうものなのだろう」と、改めて自分の人生について考えさせられる時間となったからだ。

「情熱」というキーワードを交えながら、グルーヴの構築方法、ドラマーとしての心構えや練習方法などをラルフがたっぷり語ってくれた後に、このクリニックに参加していた若いミュージシャン達とラルフ、さらにプロのミュージシャン達によるミュージック・セッションが始まった。私はそちらも大変楽しませていただいた。ラルフは演奏を一曲終えるごとに、共演した若いミュージシャンひとりひとりに、必ず良かった点と演奏がより良くなるための的確なアドバイスを授けていて、ミュージシャン達も熱心にその言葉に耳を傾けていた。ラルフに対するミュージシャンからの質問も後を絶たず、もちろんラルフはそれにひとつひとつ丁寧に答えて行く。このセッションが行われてる間、私にはラルフをはじめとしてその場にいた全員がいいヴァイブをお互いに出し合っているように感じた。

ラルフは彼のドラムや音楽、若いミュージシャン達に対する「情熱」によって、当初の終了予定時刻をなんと、90分も延長してその日のクリニックを終えた。

今回のクリニック&セッション・イベントは、「ラルフによる音楽の理論と実践」さながらの、大変充実した内容であり、大成功だったと言えるだろう。参加したミュージシャン達も、（恐らくこれから彼のクリニックに参加してみたいと思っているであろうミュージシャンも、）当イベントの関係者の皆さんも、きっと皆間違いなく、ラルフ・ロールの次回の来日をすでに心待ちにしていることと思う（もちろん私も）。